法学との連携を通じた日本語教育の実践
ー名古屋大学日本法教育研究センターの試みー

名古屋大学大学院法学研究科
佐藤　綾

1．名古屋大学日本法教育研究センターについて

1-1. 名古屋大学日本法教育センターとは

・市場経済化している国々への法教育支援を目的とし、現地の大学と協力して日本語による日本法の教育を行う組織。

・ウズベキスタン(2005 年)、モンゴル(2006 年)、ベトナム（2007 年)、カンボジア(2008 年)に設置。

1-2. 特色

・各国の法科大学・法学部で「日本法コース」を開講。

・現地法と並行して日本法を学ぶ。

・日本語による日本法の教育。

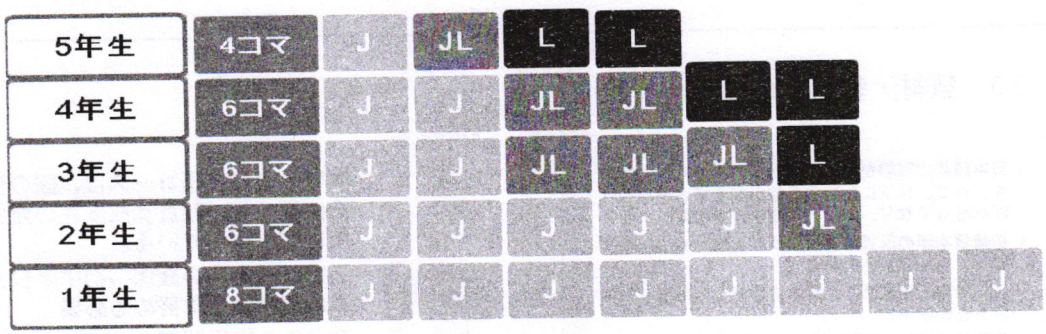
・卒業後、優秀者は修士課程に留学。

⇒ **本センターにおける日本語教育で必要なこと**

・法学との連携

・アカデミック・スキルの養成

2．カリキュラム



※1 コマ＝90 分

J＝日本語：　文法、漢字、聴解、会話、読解、作文など

JL＝日本語と法学の連携の授業：社会科、ディベート、論文作成、日本法読解、研究技法・計画など

L＝日本法講義

3．法学との連携

3-1. 教材

2年生用教材：『日本史・公民』

3年生用教材：『日本の法とシステム』

3-2. 授業

2年生　社会科：日本の法律の形成に重要な事象に焦点を当てた授業。『日本史・公民』使用。

3年生　日本法読解：日本法講義で使う『日本の法とシステム』の読解。日本法講義への橋渡し。

ディベート：法律の問題に関するディベートの授業。

論文作成：研究レポート(学年論文)の執筆に必要な執筆作法の指導と執筆指導。

4・5年生　研究技法・計画：大学院進学を目指した研究計画書の作成。

3-3. 研究

3年生の研究レポート(学年論文)、4・5年生の研究計画書の執筆に当たり、日本語講師は執筆作法の指導、日本語面の添削を行い、法学講師は内容の指導に当たる。

4．アカデミック・スキルの養成

4-1. アカデミック・スキルとは

湯川（2006）「大学で学問を行う者にとって、最低限必要な技法あるいは技術のこと」

舘岡（2002）「資料収集力、分析力、思考力、批判力、発表力、論文記述力などの技能能力」

4-2. アカデミック・スキル養成のための活動

4-2-1. 聞く・話す

1年生・2年生：プロジェクト・ワークの実施

3～5年生：発表技術の指導、研究発表会における発表及び質疑応答、ディベート、ディスカッション

4-2-2. 読む

1年生・2年生：トップダウン型、ボトムアップ型など、いろいろな読み方の指導

3年生：テキストの読解、他者の作成資料(レジュメ等)の読み込み

4・5年生：新聞等のレーリアの読解、日本語の専門書の読解

4-2-3. 書く

1年生：作文

2年生：作文及び社会問題に関するレポート執筆

3年生：レジュメ作成、研究レポート(学年論文)の執筆

4・5年生：研究計画書の執筆

【参考文献】

舘岡洋子(2002)「日本語でのアカデミック・スキルの養成と自律的学習」『東海大学紀要 留学生教育センター』22号，東海大学留学生教育センター, 1-20

湯川武(2006)「アカデミック・スキルズとは」佐藤望(編)『アカデミック・スキルズ―大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会，10-27